

令和元年度 第3回総合診療専門医検討委員会（通算10回）

議事録

開催日時 令和元年6月14日（金）18時00分～20時10分
開催場所 TKP 東京駅セントラルカンファレンスセンター11E 会場

出席者 委員長 羽鳥 裕

委員 浅井 文和 井上健一郎 北村 聖 草場 鉄周 清水 貴子
菅原 正弘 園田 幸生 竹村 洋典 田妻 進 野村 英樹
前野 哲博 山田 隆司 邊見 公雄 横山 彰仁

オブザーバー 有岡 宏子 生坂 政臣 大平 善之 太田 光泰 松原 謙二
佐々木 健（厚労省） 加藤 琢磨（厚労省） 和田 光貴（全自病協）

事務局 柴田 浩二 他

欠席者 委員 有賀 徹 石松 伸一 今村 聡 金丸 吉昌 清水 俊明
南学 正臣 渡辺 毅

1. WGからの報告事項と審議事項（竹村委員より）

(1) プログラム認定関連チーム報告と審議

8つのプログラムからまだ、問い合わせの回答がないとの報告あり。今後は2019年度の審査にて行うこととなった。

(2) 内科研修関連チーム

(ア) 総合診療領域の専攻医登録などの運営のため J-OSLER の使用料のみならず、様々な費用に充当するために、専攻医から登録料(名目は検討)などを徴収することにワーキングでは異論がかかったことが紹介された。また、今後は本委員会、財務委員会や理事会などで議論してほしい旨、説明があった。

(3) 講習会関連チーム報告と審議

今回はワーキングにて報告や審議はなし。

(4) 広報関連チーム報告と審議

(ア) ワーキングにて情報配信すべき団体等が報告され、委員会にて了承された。

(イ) FAQはワーキングにて内容が審議され(1ページ目の1から13まで、2ページ目の1-7)が了承されてことが報告され、委員会にて了承された。

(5) 専攻医支援関連チーム報告と審議

(ア) 専攻医支援関連チームに金丸委員と清水貴子委員を追加することが了承されたことが報告され、委員にて了承された。

(イ) 評価ツール(MiniCEX、CbD、多職種評価)について、野村委員の出された案がワーキングにて議論され文言の修正後にそのツールが了承され、委員会にてもそれを使用することが了承された。

(ウ) 指導医マニュアルについて、専攻医マニュアルの項目1から11を記載すること、整備基準に係る部分は変えない、それ以外の部分についてはワーキングにて審議することとなった。

(エ) ポートフォリオの領域名については、研修のアウトカムである7つの資質・能力とすべきとの意見があり、その是非が議論された。原案を上回るような内容とするために、参考にするべき領域名を日本プライマリケア連合学会、全自病協、国診協、日本病院総合診療医学会、日本内科学会、日本臨床内科医会から提出

してもらいように聞くこととなった。

(オ) ポートフォリオは、原案の他に野村委員から領域名を7つに絞った案が提出され、教育学的な観点を含む利点と欠点が議論された。どのようなバックグラウンドのプログラムも受け入れられる多様性を認めるべきとの意見が出された。そして委員会で多数決がとられ両者を採用することが了承された。

(カ) ファイルメーカー版研修手帳については、上記の変更を反映して、内容の修正をすることとなった。

(6) 専門医試験関連チームについて

メンバーなどを決めて活動することが確認された。

2. 専攻医の費用負担について

今後、審議されることとなった。

3. プログラムについての問い合わせ

(ア) 特任指導医の資格

医師 7 年目においても特任指導医講習会を受けることを許可し、7 年目を超えた段階で特任指導医と認定することが了承された。

(イ) 医療資源の乏しい地域

今後、医師少数区域についてどのように取り扱うかの議論がなされるので、これを踏まえる必要がある、しかし必要に応じて昨年度と同様な基準を用いることを前提とした返答をすることとなった。

4. 委員長メッセージ（第2弾）について

近日中に委員長メッセージ第2弾を公表する予定であることが報告された。

5. 試験について

上記の通り

以上